



近代
史
三

1加3
998
3



加3
998
3



本朝世事談綺卷之三月錄

○態藝門

香道 神田香 式三番 狂言 小鼓 家研 家雕 基

歌謡 歌謡 歌謡 歌謡 歌謡 歌謡 歌謡 歌謡

加茂香 能太夫師 勸進能 笛太鼓 宗近刀 横谷雕 雙六 大々摘

上巻

三

〇

揚弓
井上節
詰新節
土佐節
河東節
古今節
勘三郎芝居
獨藝
おやま

澤田燭
後太夫節
肥前節
永田節
隆連節
男衆
竹芝居
人形遣
止づる

加太夫節
澤雲節
外記節
半太夫節
道念節
歌衆妓
勘三郎芝居
野郎同
澤田燭作者

本朝世事談綺卷之三

菊岡沾涼述



態藝

○香道

東山慈照院殿始て香角の法をまゐる作は名香三枝
をたふしつゝに優劣をわきまを名香とて其の
十柱香競馬。能月。源氏。吳越木を始。凡六十二箇の法
あり。滑下。松竹の香。連理香。踏鞠香。四香。香。内。品。有
十種名香。東大寺。法隆寺。道達。二。香。節。柏。香
法華經。紅塵。八橋。中。川。香。橋。香。し

所不遇か六種のあき又平種のみきなり又七十種のみき
 百六十種のあきなり又あきのみきなり又あきのみきなり
 虎園異制庭訓云天平年中百濟國よりあきのみきなり
 を貢献せしあり又朱雀院朝開院本良の軍方仁仁
 此美和百歩香よりあきのみきなり一木をとり
 事か一應承のころ京極入道登一木をとり
 軍旅國幣のいふゆをとりめり文惠のころ
 香たは隆と介
 所二二階堂 長秀 松田丹後守 兼直 肥山五京
 元種 内良大藏 祐憲 志野孫三郎 盛卿 徳和公庫
 肖相 美彦 志等 人香道長なり又法子相河原
 志野院の二流あり

○ 蹴鞠

用明天皇の朝はけり 故書抄 宇佐天皇の朝中大兄
 中臣鎌子なり法皇の朝のまのりも鞠をとり
 事日本紀よりみたり七十代後河原院よりみたり
 あらけり時大御成道よりあきのみきなり二神
 常よりみたりしものら雅波村神宮にみたり
 雅波村神宮にみたりあきのみきなり今もあきのみきなり
 十代後河原院にみたりあきのみきなりあきのみきなり
 後河原院にみたりあきのみきなりあきのみきなり
 一よりあきのみきなりあきのみきなりあきのみきなり
 そのころよりみたりあきのみきなりあきのみきなり

外郎流

治陽西門院陣外郎二位右大臣藤原公家

やゝせうろと候し 我一人て之を名ふ
もろゝのや又時風といふ時風なりけり人春日
然一神殿武魔権尊の補佐官し津を教めを
あり頼朝義経といふ頼朝義経といふ人出を
陽相ふといふ文育才といふとすこし之を仰る
所もめてけりまゝかた事いある人
他の所もて世の事柄を付もてくく人時風
我々の苗字のやいなり

○能

東の殿の時部いへはける 親世親河海
ありをさへい親世泰下膳の末流めして御儀なれ
し渠は今一てけ枝をさへしひ能い神事をやさ

たゝものなりとてさへしひ能い神事
これを神事能と云 神事をさへしひ能い
太神宮より和成 膳田 膳田の三座
日吉より 心陽 膳田 膳田の三座
賀辰住吉より 本座 新座 何れは膳田 膳田の三座
春日より 外山 室 膳田 膳田の三座
け春日の四座は膳田 膳田の三座
いづくかこれ 今春日泰氏安二十九年
所田は膳田 膳田の三座
乃膳田は膳田 膳田の三座
喜多は膳田 膳田の三座
乃膳田は膳田 膳田の三座

苗津島より寄ひて端菜の妙を傳へり長徳は
其多の姫祖し堺探町より長徳の舊屋あり

式三番

翁ハ天照太神

千歲八幡大神
鈴太夫

三番渡

春日神と秘と汎と力と多羅尼と

脇師

進友福王春友高安宝生新友
第子家あり

申樂

翰林胡忠集云秦下膠河ある推古帝

の朝鹿戸皇子天神世祇を祭紀一安國の政をま

ふて十六歳の曲を唄う下格の命——紫震殿の茶

ふし大優の枝をさしむ太子は神楽の神名字と

て申樂と名付説文申も又神といふに

猿樂と云神楽也。一々戯をなす。例

宇治拾遺云内侍所出神乐的庭職事家也

めし今宵めししん申ふくまきしん

源氏乙女の巻は比々と流るくてあ

○勸進能

後元正舞
申
馬
蓋

進解無^二心^一
能止^レ聖人
表^レ衆生
可^レ不

法印下ハ九十八ハ安ハ妙ハ力ハ精ハ之ハ筆ハ小ハ三ハ下ハ下ハ

[illegible]

是春
 正月
 二月
 三月
 四月
 五月
 六月
 七月
 八月
 九月
 十月
 十一月
 十二月

二月 卯 一 秋 留山尾 長弓 長家 忍々

二
八
南
一
八
一
六
三

三日 沖一献 還海 斯波治戸女補義廣宅舎
 細川富公弟波名一石之様多に授く相傳義廣後院
 佐々木とくも
 佐々木とくも 湯肩衣とくも 事あり 例

初日 四月五日

相生 みるまの著
 八幡 かんき
 三井寺 さうひき
 取 足ら
 源氏佐頼 くら
 丹後物狂 八幡のま
 鶴岡

二日

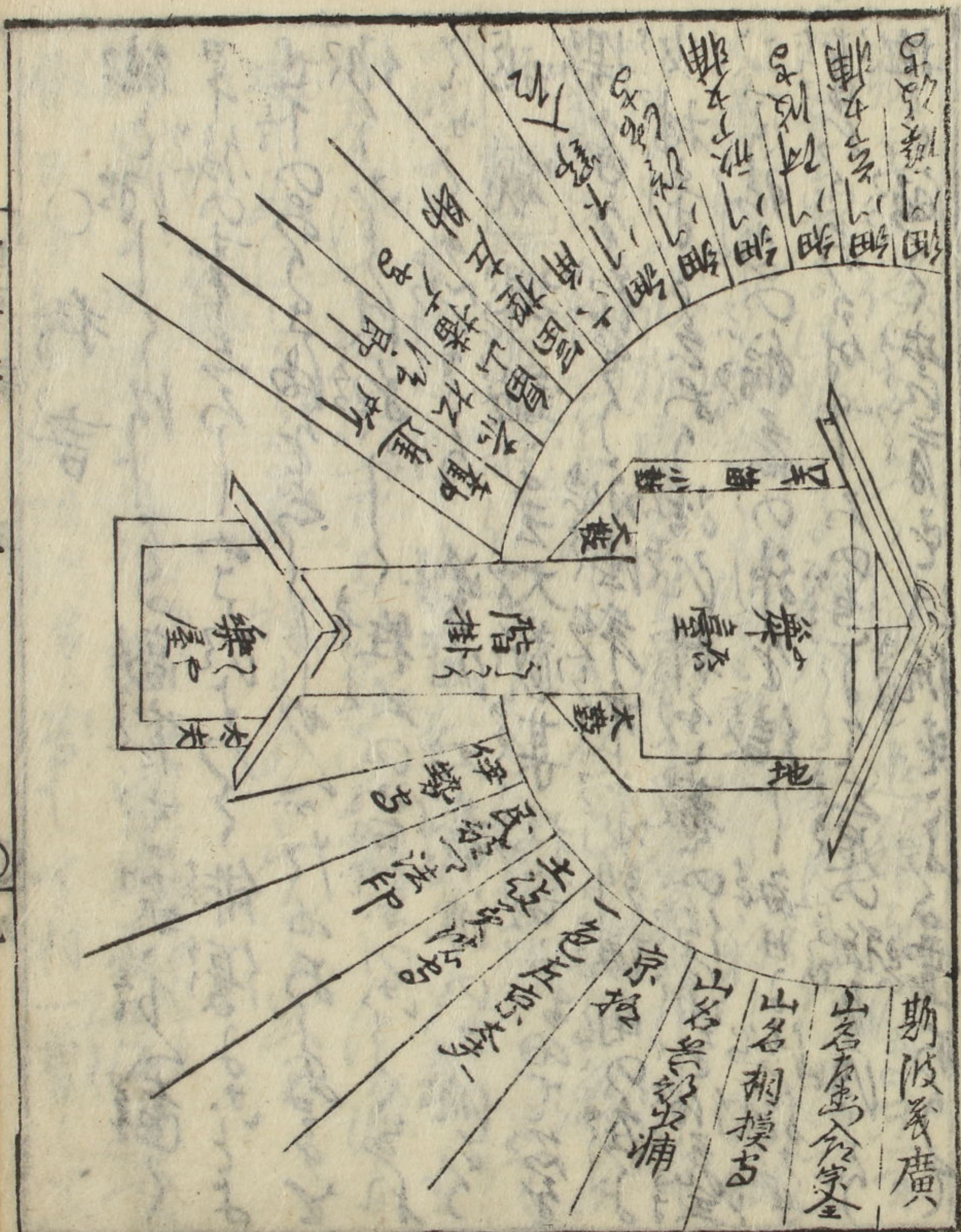
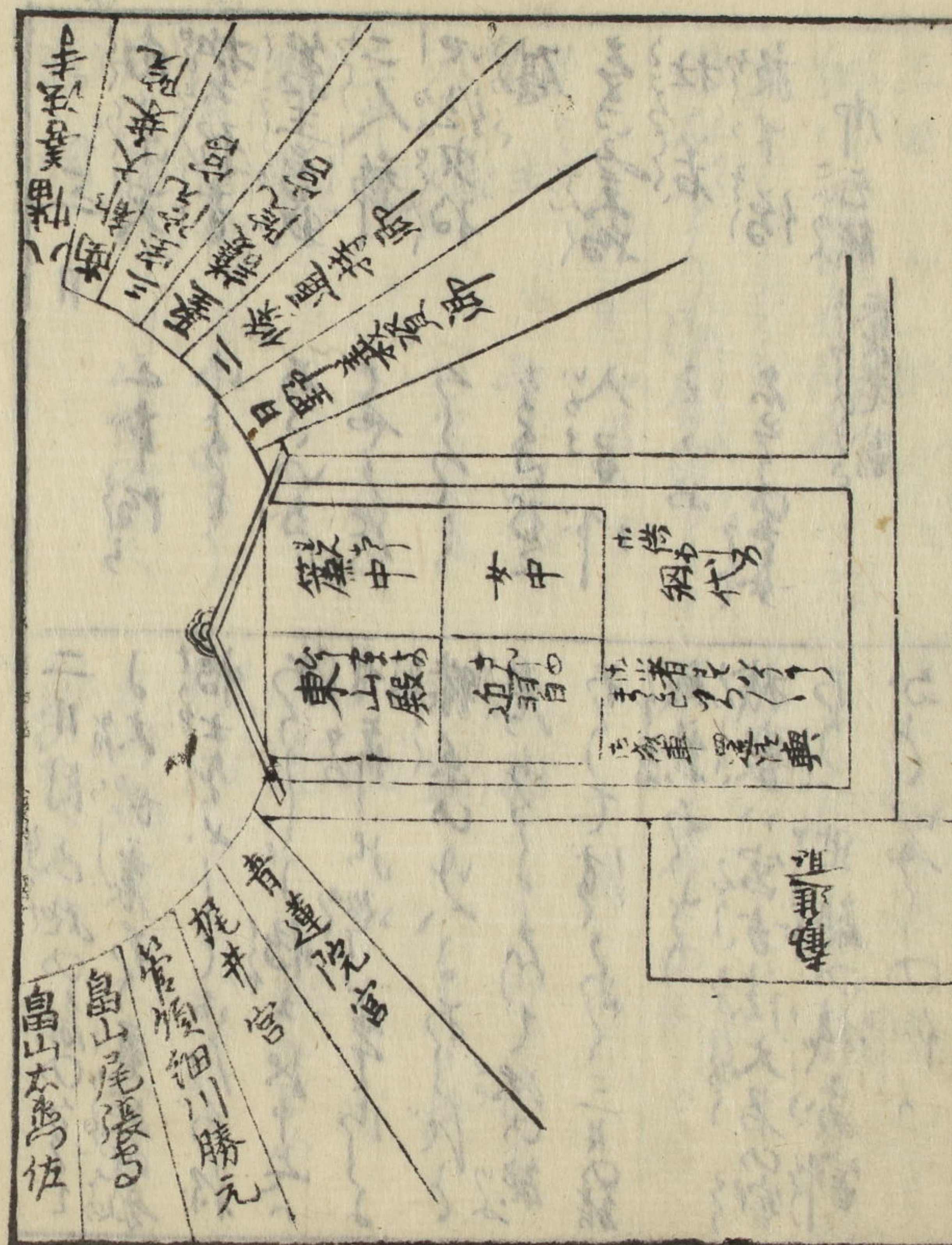
鶴羽 ひけふ
 敷盛 うさ
 春近 大い
 松風 いま
 自他居士 志
 恵のちも

三日

向天 二本
 松平 小
 第二王 あり
 二人 とも
 口 くら
 礎 くら
 多き 入
 杜若 くら
 夜下 くら
 市 くら
 養老

二日

二日月 山姥の能
 小太夫 辰
 将士 辰
 あり 辰
 時 辰
 精 辰
 老 辰
 わり 辰
 機 辰
 わり 辰
 かつ 辰



○ 狂言

能く何とく何とくする高官なるか、
 早後の事ある、
 せ下のありさめを、
 何く、
 狂人の言葉、
 大藏流の二流あり、
 大藏其狂言、
 少材寺とあり、
 二、
 抱く、

大藏主は、
 乃、
 大藏、
 大藏氏、
 狂言、
 妙を、
 達、

○ 笛

能く、
 春日、
 流、
 尾、
 中村、



妙術あり幸一曾流の始祖なり森氏元ハ
大森氏なり毛利元就の長寛戸伯耆守苗子
妙を傳へり醫師何某子つゝ天正の年大森
氏を傳へ七某よりハの醫者なり妙を傳へて世に
幸森田乃始祖なり又ハ家を小苗と稱し寛永
の年森田宗全九某よりハて流能を傳へる
小苗よりハく世に小苗と稱し
規操きそう 世に小苗と稱し

○小鼓

幸流第九郎流大森流なり幸元外流なり
能流順幸四郎流幸忠能と云妙あり天正
七年幸元幸の始祖なり其子幸元幸を更

巨鼓

大鼓

圓滿井氏信

金春禪竹

氏元

宗印

元安

禪
偏

喜照

宗隨

安照

禪曲

氏勝

精本

喜勝

及連

室勝

宗竹

盛勝

喜家

道壽

室家

宗

重次

七言

太敦金春權頭弟子

太穀宗伯二羽
改丁似我流卜十八

釣命ニヨツテ觀世座
トナル

家研

今河原あきと稱せ、雍州府志云、尊氏の時、孫金、妙本、
 河原と云あり、あるは、矢、新、舊、真、實、を相、
 磨、礪、を、来、し、ん、尊氏、之、入、洛、の、時、徒、ひ、き、
 元、ハ、松田氏、なり、妙本、嫡、一、人、本、河原、と、稱、一、又、一、寺、の、

内も嫡子なりしが松田を名とし又光の字を諱と
かゝる事、當廣院義教の時、本河内清信とあり
けり。而も、神皇正統記、本光とある事、一、家光
の字を通字し、
雍州有志

○正宗刀

正宗といふ、祇治八人あり、相列強倉、一人、上、常、合、云、
宗、三、人、達、摩、と云、代、なり、氏、亮、二、人、父、子、傳、後、二、人、
大、和、一、人、なり、又、近、世、高、橋、い、ひ、あ、り、赤、松、一、人、傳、を、
傳、ひ、い、ひ、傳、ひ、爲、近、世、與、赤、松、と、あ、り、祇、治、三、人、
なり、又、あ、り、一、人、の、政、宗、三、人、あり

○宗近刀

宗近三人あり、宗一人、
小、祇、治、
保、順、一、人、九、割、一、人

○家雕

後、後、四、郎、云、信、祐、采、ハ、當、廣、院、義、教、云、の、臣、なり
一、且、義、教、云、の、怒、り、を、受、て、獄、舎、に、入、り、あ、り、
六、月、終、了、の、志、の、こ、う、た、を、祇、治、と、あ、り、
桃、を、あ、り、小、祇、治、大、き、き、よ、あ、り、而、後、と、い、は、れ、
あ、り、と、い、ひ、王、二、十、一、社、と、い、ひ、様、六、十、二、を、傳、へ、
その、細、密、人、間、の、な、を、と、い、ふ、事、あ、り、義、教、云、の、
あ、り、ひ、所、受、あり、あ、り、奇、な、き、事、なり、と、い、ふ、
形、を、先、一、別、法、家、と、い、ふ、今、ト、て、又、劍、の、形、を、造、
り、む、と、あ、り、神、妙、に、て、禽、獸、草、花、人、形、等、
生、か、る、事、あ、り、雕、鐫、ハ、家、を、記、と、い、ふ、殿、下、ハ、
桃、核、今、常、陸、國、と、あ、り、日、吉、ハ、神、神、と、い、ふ、

その子宗乗より代つて彫工の妙なる祐乗
狩野の法眼の居るお近く文豪のゆゑに
まづ古法眼をうけて其板紙畫の妙なるを
傳へて本朝古今の名巧なり

祐乗

後藤四郎兵衛 彫工ノ祖
義教公ニ仕エ 生国美濃 実名ヲ以法名トス
永正九年五月七日卒 歳七十八

宗乗

四郎兵衛
七十歳卒

乗真

四郎兵衛吉久
永禄五年二月六日卒
五十八歳

尊乗

孫絶

光乗

四郎兵衛光家
元和六年九十二

徳乗

四郎兵衛 寛永八年
大正九 秀吉公賜食邑

元乗

孫絶

長乗

七郎兵衛

栄乗

四郎兵衛正光
元和三年四月卒 四十三

顯乗

理兵衛正綱
寛文三年正月卒 七十八

今後藤家
此裔ナリ

○奈良

宗乗の弟なり元々奈良氏のワケも塗所の家し天姓
彫工の妙を得たり

奈良利宗

小左衛門入道宗貞

利治

四郎兵衛入道宗有

利永

七郎左衛門

宗利

小左衛門

現利光

七郎左衛門

現安親

弥五八入道東雨

○象戲

天正の頃京都宗樞より宗古あつたはり
 信長公の前より宗樞象戲を泚と信長公に
 見あつて曰く車法を象かきし人宜
 かりと習ひて今も象をかくるより萬分
 ありと宗樞と云桂馬の號あるを義に仰り
 寓兵於局藝之中謂天下雖安不忘戰
 之戲也爾來有將士歩卒車馬弩砲之
 象有藏機隱知二龍出海雙馬飲泉之
 勢とありと信長公のまゝに附合せり慶長の頃宗樞
 宗古と宗樞象戲圖式を作る其子宗古述ぐ
 べし

象戲ハ周武帝を造其臣王褒を以て家
 司る臨云象戲の圖法を作り玉堂君けり
 得るといふと本邦のぬきよ及るといふ

○雙六

聖武天皇天監年中日本（と云）本邦二十代武烈帝に
 十二の月北にほわに四五六ありと云ふ
 つもく云ふぬきのまゝと云ふなり所を
 かんておつたにまゝと云ふなり所を
 すけぬきと云ふて其のまゝに云ふなりと云ふ
 まくすといふと云ふなりと云ふ

○楊弓

宗樞楊弓にけりと云ふなりと云ふ

江戸肥前氏

源氏重光より丹後子なり

江戸肥前氏

長門重光より丹後子なり

江戸外記氏

下り重光より丹後子なり

江戸土佐氏

虎重光より丹後子なり

江戸永田氏

源氏重光より丹後子なり

江戸半平氏

知名半平氏より丹後子なり

江戸半平氏

知名半平氏より丹後子なり

江戸半平氏

知名半平氏より丹後子なり

江戸半平氏

知名半平氏より丹後子なり

江戸半平氏

知名半平氏より丹後子なり

江戸半平氏

知名半平氏より丹後子なり

江戸半平氏

知名半平氏より丹後子なり

薩摩浄雲

次郎右衛門入道

子

薩广太夫

次郎右衛門

大薩广

次郎右衛門

丹後太夫

長門太夫

丹波太夫

源太夫

永閑太夫

大源太夫

小源太夫

永閑太夫

子となすは場
子なり

外記太夫

下り重光

式部太夫

土佐太夫

虎之助

土佐太夫

近江太夫

諱齋

千品市左門

肥前太夫

半太夫

半之助

和泉太夫

河東

○隆達節

隆達節の節し衆別堀顯奉寺の院ゆ
修せしあつて還俗一太坂茶屋なる氏の
あふ入るは商人となれり常き曲をぬく小歌の
一流をくむ出さるの唱雅やうく人の心をやうげ
教ふ事なりとらうしそ隆達節と稱す

○道念節

市子屋念ふ節と云興撫の音あり自享は願盆
乃濯と洗といふをくくじし一り此節濯の指し
よく合ふ間なれり今も中をうへん

○古今節

え縁のころ古今節の曲と云芝居志くくじし

○男衆

白拍子ノ事

後者細院の節を通憲入る法藝甚能の今衆来
をやりて成の節司といふ女衆をいへり水子
主と云ふ一太刀を常て衆一いふ男衆といふ
破の常月一生園後及大因郡小破と云ふ者
女衆は常と云ふけふのけし而後後衆といふ
後者太刀を常てありを白拍子と云ふそれより代り
白拍子といふ今衆子濯といふいふあり
比也

○歌衆妓

羅山子日慶長十九年子何
乃き俳号はをつかへ念佛躍といひし文也

十九子佐渡守が國といふ女あはるの衆女をあるに傳
 河原より芝居をきくけが國の出を大社の巫女と名乗る
 と云ふものと密通し一帯のゆるがせに秋子比田の横田
 る苗といふ女も此の里にありて巫女に神主を妻
 して衆といふ女も此の里にありて巫女に神主を妻
 こゝろをうりてさうりきりて寛永十年中
 女衆衆女を禁制ありてある衆衆女なりぬ
 ありて月やあるをどうに奇衆衆女を法外ありて
 そのらさあく衆を立する所の向飾を長年ありて
 ありて芝居をきく一とある衆衆女を僅利
 野郎といふ衆といふ衆といふ衆といふ衆といふ衆
 野郎といふ衆といふ衆といふ衆といふ衆といふ衆

中村勘三郎芝居 寛永元年中村勘三郎芝居
 をある衆衆女を禁制ありてある衆衆女なりぬ
 二代月明石芝居といふ衆衆女を法外ありて
 市村竹之丞芝居 寛永十年中村勘三郎芝居
 をある衆衆女を禁制ありてある衆衆女なりぬ
 八代なりある芝居の衆衆女を法外ありて
 森田島源生居 万治三年に中村勘三郎芝居
 神田多助 寛永元年中村勘三郎芝居
 人形遣 寛永元年中村勘三郎芝居
 芝居の人形遣 寛永元年中村勘三郎芝居

江戸小平太と云ふものゝ人し羅山文集ニ云鼓吹樂
 歌ありと云偶の動は應じて曲節あり且是を
 操を（たを）板を（い）踏（ふ）くは若と云偶とお得る
 事殆生あり今日のみある者江戸才一乃偃作
 小平太と号追世の偶偶子云巧者なりと云
 野郎間江戸松本より芝居の野良松甚く名と
 ありもの形ひく色ちよと云やけある人形をつ
 造をのりま形と云中希松の形作り又強斎在東
 いかこそ人形をつひおたき賢愚の法を言せ
 しそより形を平めてのりはしひ癡漢より
 一と云い後より西びき曲なりと云もの出来り
 おやま 小山平太三郎と云ふもの女の人形をうらふ

牡丹傾城

のまゝ

出

底松

帝業之在河也勢張人形也

つものいふに帳の糸を玉に改めんと被り已り

かゝるを足せざるは常しかりきと云ふゆへ人形の動かし

ちのむぐ所をもしその酒はんもそのまゝをきく

何なる展覧人形子と雖も
学を志し手携る

くさくさ量のものをうき全身おもみ

古今人の心より居たものなり 聖名致有

大坂前井小三郎近奉九中札夫云等出己

○ 澤庵遺稿

[illegible]

孟子卷之三

[illegible]

